

住民主体のまちづくり

No.30 2016. 5

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ たけのこほり

去る4月23日(日)、観音寺地区で地元の有志による「たけのこほり」のイベントが企画され行われました。これは地域の資源と出会うことで、身近に地域のよさを知り、自分の生まれた育った地域に目を向けることとなります。有志の方々は事前に、「たけのこ」の生える場所の地主さんに、丁寧にイベントの趣旨を説明されて快く会場を提供いただきました。この日は、快晴となり、午前10時に観音寺新町を中心に10組以上の親子が観音堂の前庭に集合しました。

企画された方から「たけのこ」について説明があり観音堂前庭横の竹やぶに移動して子どもの身長より大きな「たけのこ」を折ってきました。皮のしくみを聞く間に子どもたちは皮をむき始めました。「3日ほどでこの大きさに成長しますよ！」と言われびっくり仰天。続いて場所を移動して、「たけのこ」の姿を見つけると、あっという間にみんなが「たけのこ」に取り付きました。



最後に今日の本命の場所に行きました。ここはちょっと顔を出した食べごろの「たけのこ」がたくさん顔を出していました。ようやく本当の「たけのこほり」になりました。



■ 花まつり

5月1日の日曜日、観音寺地区で、失われてしまった貴重な伝統行事を復活して地域を元気になりたいと、県指定保護文化財である十一面観音菩薩座像の庵で「花まつり」が実施されました。この日は、まず庵で梅翁寺住職さんによる法要に続き、お釈迦さん誕生と日本に伝わったお茶に関する講話をじっくり聴きました。そしていよいよ、花で飾られたお堂(花御堂)の中に甘茶を入れたお盆(浴盆)が置かれ、その盆の中央に釈迦像(誕生仏)を安置し、柄杓で大勢の参拝者が順番に甘茶を像の頭上から注いだ後、さっそく「お茶」席が始まります。



小学生ばかりでなく高校生、中学生も観音寺新町から多数参加しました。お茶席はひっきりなしの大繁盛で200人以上の券が売れました。そして、この会場を大きく盛り上げたのはサクスの演奏です。七区 坂本信文さんの演奏です。「この演奏だけでも癒(いや)されますね！」という声もありました。心配された「門前市」はたくさん売り上げがありました。子どもも大人もたくさん参加して盛り上がったのは「輪投げ」大会でした。

世話人の山根誠也さんは「地域に埋もれている伝統行事を復活して行くということは、かなりの努力と困難さを要すが、貴重な行事を次代に残すという面で重要である。そして、このことを通して地域に誇りと愛着をもたらし、地域共同体に果たす役割も大きいのではないかと思う。」と語られました。

自分たちのまちは自分たちで(つくる つなぐ つづける)